

G★U★M★B★O

マネジメントの発明者:ピーター・ドラッカー(記者:藤田泰)

こんにちは、藤田です。さすがの猛暑も峠を越えて秋の気配が漂い始めた今日この頃です。さて、今回は「マネジメントの発明者」として世界的に著名なピーター・ドラッカー(Peter F. Drucker 1909-2005)を紹介します。ドラッカー博士はウィーン生まれのユダヤ系オーストリア人ですが、後にイギリス、アメリカに移住しています。60年以上にわたり業績を上げ続けた泰斗です。今回は、彼の言葉を三つだけみてみましょう。

1. 企業の目的は利益を上げることではない、企業の目的は顧客の創造である

まず、第一に、人々が商品やサービスに与える「価値」には多くの内容が含まれています。決して価格だけではありません。価値は人によって異なる多様なものです。第二に、この「価値」を知っているのは顧客しかいません。いくら、社内でみな揃って「これは良い、これは良い」といっても、ほんとに良いかどうかはお客さんが判断するのです。そして、この顧客を創り出す能力を持つ企業だけが成長を許されます。

2. 企業がやるべきこと、企業の基本的な機能は2つだけ

企業において基本的な機能であるマーケティングとイノベーションの二つだけが成果をもたらします。

マーケティングは「私たちは何を売りたいか」ではなく、「顧客は何を買いたいか」を問います。つまり、マーケティングが目指すものは、顧客を理解し、製品とサービスを顧客に合わせ、おのずから売れるようにすることです。

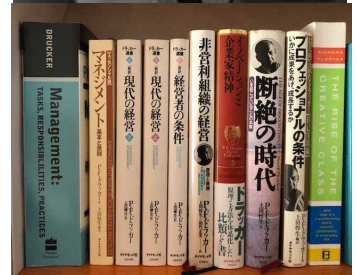
イノベーションは「新しい満足を生み出すこと」です。それは、発明や技術のみではなく、あらゆる部門、職能、活動に及びます。イノベーションは、人的資源に対し、より大きな富を生み出す新しい能力をもたらします。

3. 企業にとって利益とは

それでは、企業は利益を上げなくてもよいのか？ドラッカー博士は「企業の目的は利益ではない」と言っていますが、「企業は利益をあげなくてもよい」とは言っておりません。利益は原因ではなく結果です。それは、マーケティング、イノベーション、生産性の向上などの結果手にするものであり、その妥当性の判定基準です。

経営戦略を立て、遂行した結果、それが正しければ利益を手にすることができる。戦略が正しかった、と判定してもらえる、ということでしょう。そして、企業は高い利益をあげて、初めて社会貢献を果たすことができるのです。

このようなドラッカー博士の業績を簡略にまとめることは困難です。しかし、どの著書も示唆に富んでいて得るものが多いです。皆さんもぜひ一度手にしてみてください。図書館には必ず所蔵されています。



気になる事(記者:杉浦)

皆様、如何お過ごしでしょうか…。気になります！中国(中華人民共和国)!!近年では、新型コロナ、長江流域の豪雨と洪水と天災？人災？続きですが、GDPは世界2位で、2020年代中にはアメリカを抜き世界1位になると言われております。

世界大戦後、毛沢東は、蒋介石率いる国民党を台湾へ追いやり、大陸部を支配し1949年に中華人民共和国を建国しました。その後は政策が当たらず長い低迷期を送ります。1956年「百花齊放百家争鳴:誰もが思ったことの言える開かれた社会主義」を提唱…予想を上回る共産党批判に「反右派闘争」過度の批判者を肅正。1958年「大躍進政策:人民公社の指示で、男性は鉄生産、女性は農作業、子供は教育」を提唱し、3年後にはイギリス以上の工業国になるという計画を進めた。村単位の人民公社に行けば仕事、食事、教育はあったが、広い国土の為、たどり着くのに山越えがあるなど、人民は混乱した。また、食事配分の平等はサボっても変わらないと労働意欲を下げてしまった。当時の中国は餓死者がでるほどだった。1966年「文化大革命:政策の失敗に国家主席を追われた毛沢東が巻き返しを狙った権力闘争:封建・資本主義文化を打破し、新しい社会主義文化をつくる」を提唱し…大混乱がおきた。「造反有理:造反する者には理由がある」と唱え旧文化(寺、仏像、陶器書など)を破壊した。また文化大革命に批判的な者を吊し上げ、さらし者にした。暴行、殺害なども横行した。1976年に、毛沢東が死亡し、文化大革命も終わりを迎えた。国を作るまでは良かったがその後がダメダメであった。

その後、鄧小平が権力を握ると、1978年「改革・解放政策」を唱え、市場原理や外貨導入し、従来の社会主義路線からの変化をめざしたものだ。それは、国連の中国代表で訪れた際のアメリカ、戦後復興・高度成長を経て世界第2位の経済大国となっていた日本に、驚き焦りを抱いたためだろう。

戦後長期の低迷は政策の失敗によるもので、当時同じ社会主義国であったソビエト連邦の失敗を半面教師にしたようだがうまくいかなかった。社会主義思想もある程度の支持があり、国を成したけれど、当時、人類として経験のない思想であり、まとめ上げるには至らなかったようですね。長くなったので続きはまた今度で、それでは皆様ごきげんよ～^^ノシ



第99代内閣総理大臣となった菅 義偉(すがよしひで)とはどんな人か？(記者:吉野)

今回、9月16日の午後より内閣総理大臣に指名された菅義偉氏ですが、1948年(昭和23年)生まれ、秋田県雄勝郡秋ノ宮村(現湯沢市)出身です。前職は、段ボール工場や建電設備株式会社の作業員だったそうです。その後、衆議院の秘書や横浜市議員そして内閣官房長官など経て、この度、99代目に任命。安倍前総理大臣からも抜群な信頼度があり、2019年4月1日官房長官として新元号令和を発表したことから、「令和おじさん」の愛称で親しまれているそうですよ。好物はパンケーキで、大の甘党らしいです。SNSを中心に「ガースー」という呼び名が定着している事を受けて「嫌な気なんか全然ないですよ。公認ですよ。」と満面の笑みで述べているそうで、隠し事がなさそうな印象をもちました。総理就任会見時にも、緊張をされていたのか、たどたどしく可愛らしいおじいちゃん的イメージをもちました。国民に愛され、安倍前総理よりも長い任期を期待したいです。

